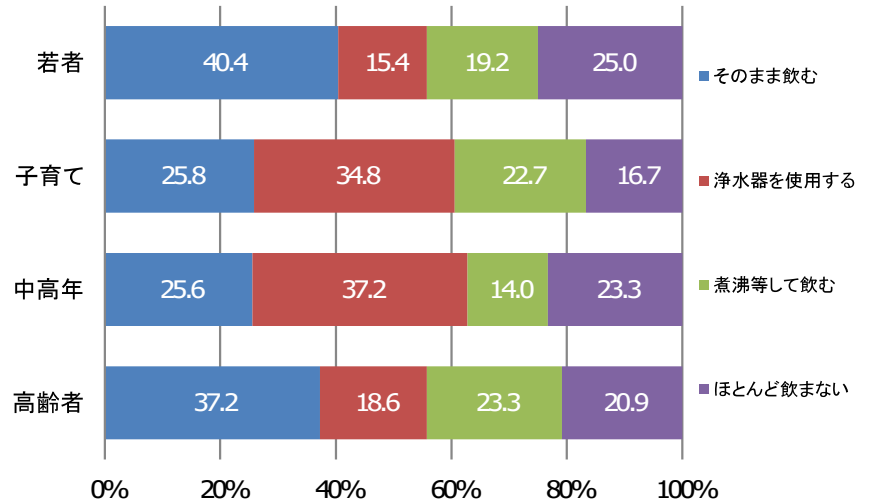
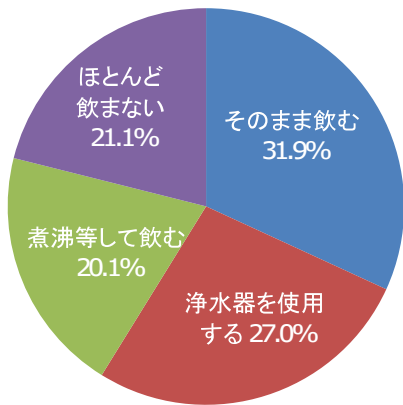


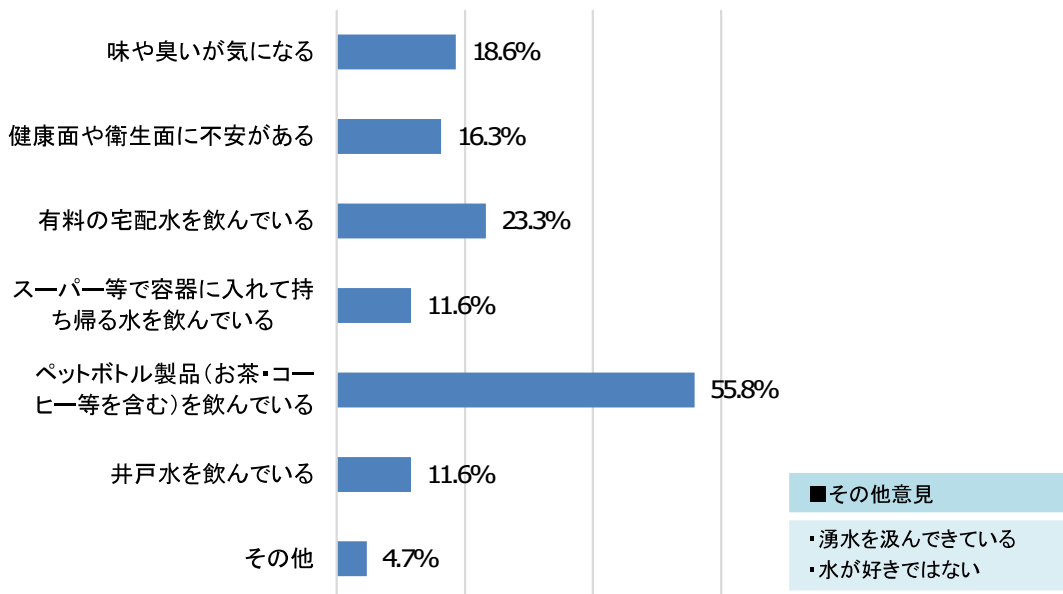
＜上下水道に関する取り組みについて＞

■問1 水道水をどのように飲んでいるか (N=204)



- 水道水をどのように飲んでいるかについては、「そのまま飲む」が約3割と最も多く、次いで「浄水器を使用する」も約3割となっています。
- 世代別にみると、若者・高齢者では「そのまま飲む」が、子育て・中高年では「浄水器を使用する」が最も多い回答となっています。

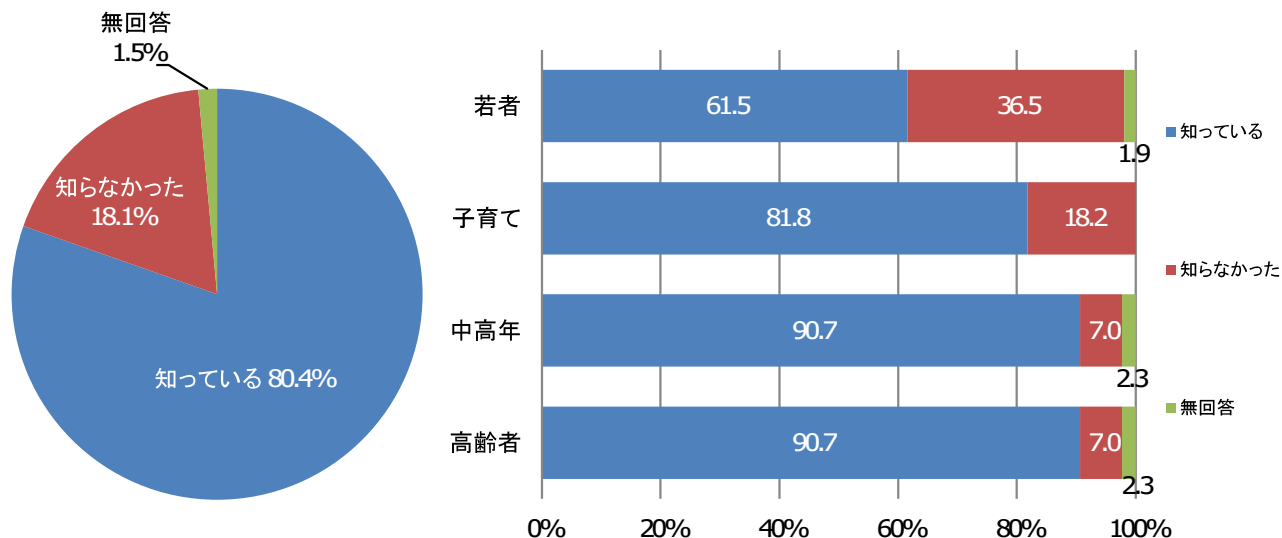
■問2 水道水を飲まない理由 (N=43 複数回答) (問1で「4 水道水はほとんど飲まない」と回答した方)



- 水道水を飲まない理由については、「ペットボトル製品(お茶・コーヒー等を含む)を飲んでいる」が約6割と最も多い回答となっています。

問3 水道水には水道法による水質基準※があることの認知度 (N=204)

※ 水道水には、人の健康への影響や生活利用上の支障がないよう設定された51項目に及ぶ検査が義務付けられています。

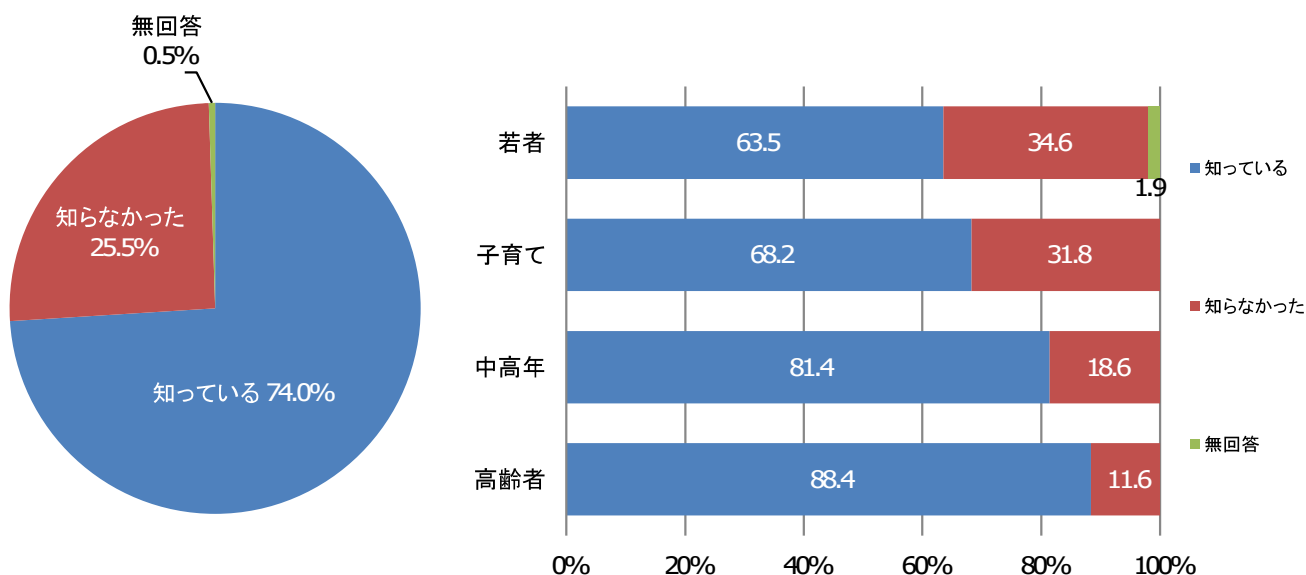


- 水道水には水道法による水質基準があることの認知度については、「知っている」が約8割となっています。
- 世代別にみると、世代が高くなるにつれて「知っている」の回答割合が高くなっています。

問4 水道水は塩素の残留により飲み水の安全性が確保※されていることの認知度 (N=204)

(N=204)

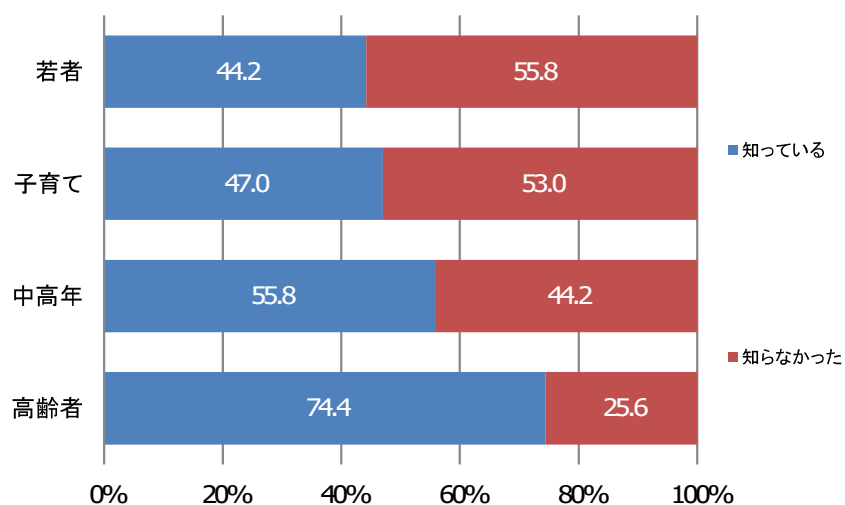
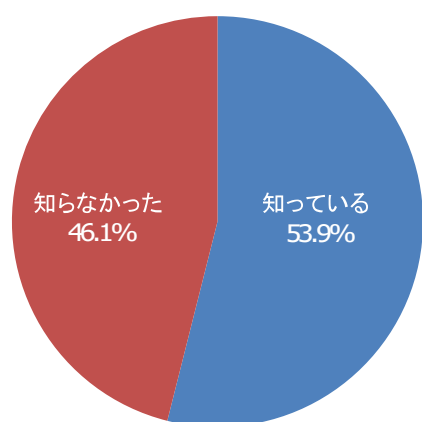
※ 水道法では、給水栓における水の遊離残留塩素を0.1mg/L以上保持するよう塩素消毒すること等が義務付けられています。また、過剰な濃度にならないように1mg/L以下の目標値が設けられています。なお、塩素は病原菌等に対して消毒効果がありますが、この程度の濃度では人に対して影響はありません。



- 水道水は塩素の残留により飲み水の安全性が確保されていることの認知度については、「知っている」が約7割となっています。
- 世代別にみると、世代が高くなるにつれて「知っている」の回答割合が高くなっています。

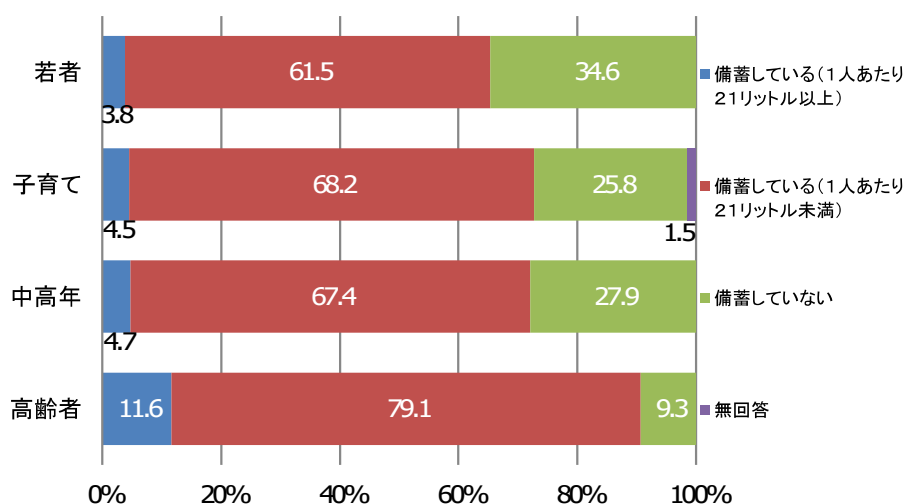
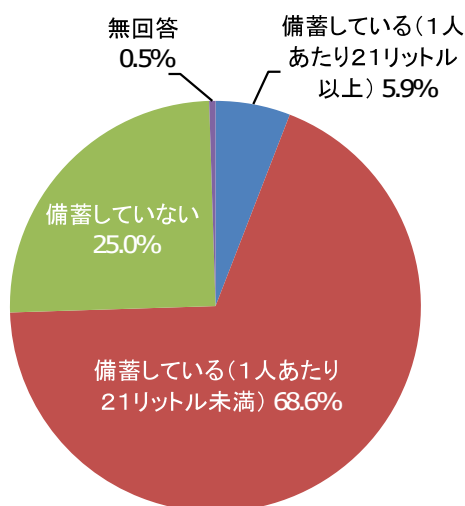
問5 災害時に必要な飲料水の備蓄量※の認知度 (N=204)

※ 1人1日あたり3リットル×7日分=21リットル(2リットルペットボトルおよそ10本分)



- 災害時に必要な飲料水の備蓄量の認知度については、「知っている」が約5割となっています。
- 世代別にみると、世代が高くなるにつれて「知っている」の回答割合が高くなっています。

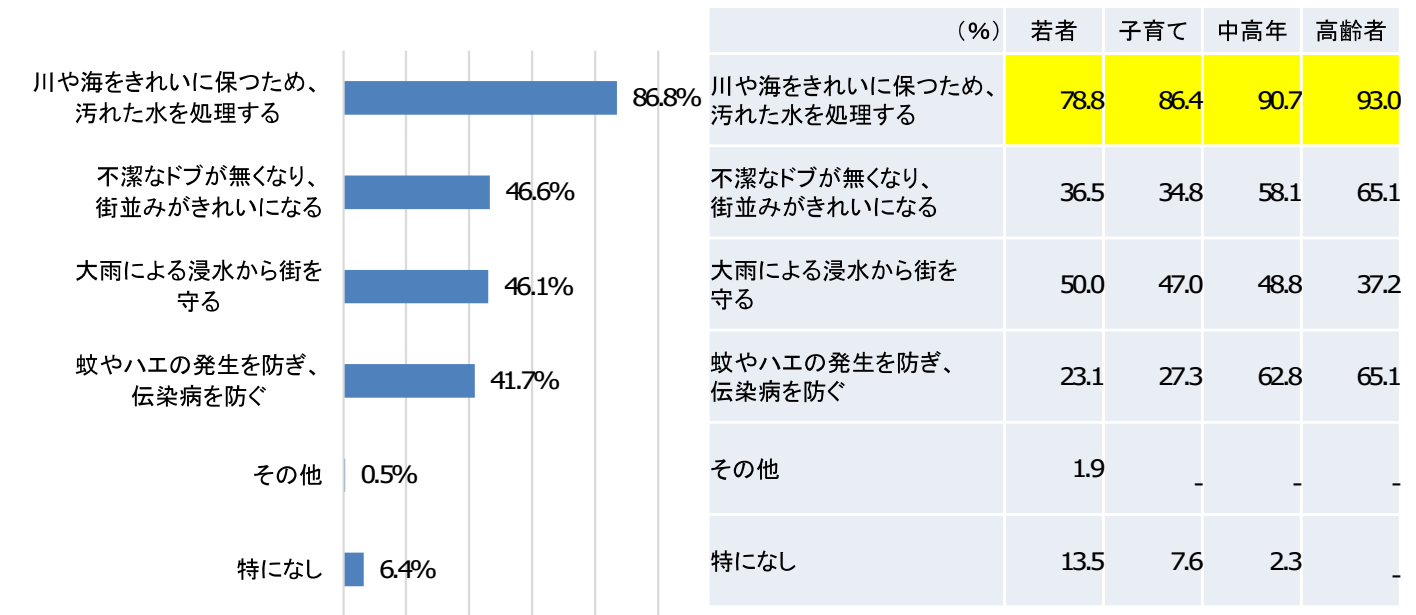
問6 災害用として飲料水を備蓄しているか (N=204)



- 災害用として飲料水を備蓄しているかについては、『備蓄している』(「備蓄している(1人あたり21リットル以上)」と「備蓄している(1人あたり21リットル未満)」の合計)が約7割となっています。
- 世代別にみると、おおむね世代が高くなるにつれて『備蓄している』の回答割合が高くなっています。

問7 下水道の役割で知っていること

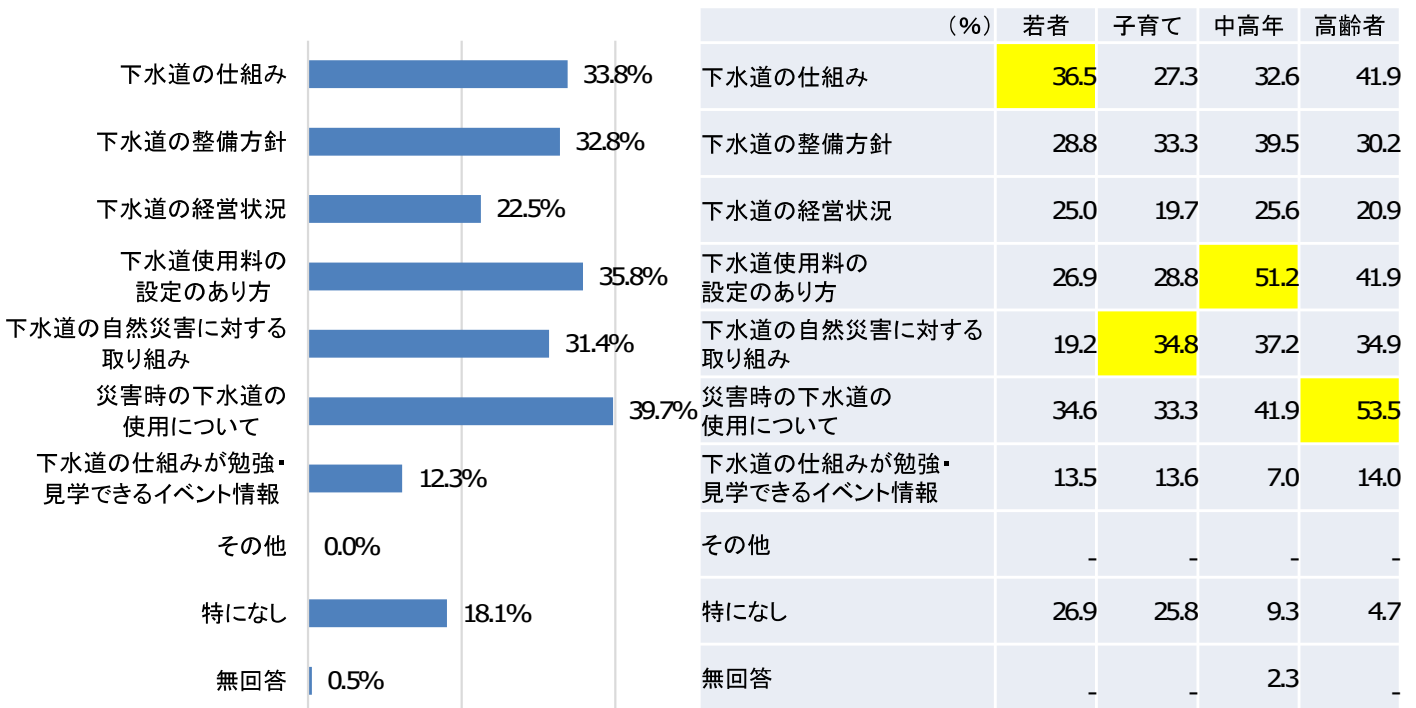
(N=204 複数回答)



- 下水道の役割で知っていることについては、「川や海をきれいに保つため、汚れた水を処理する」が約9割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「川や海をきれいに保つため、汚れた水を処理する」が最も多い回答となっています。

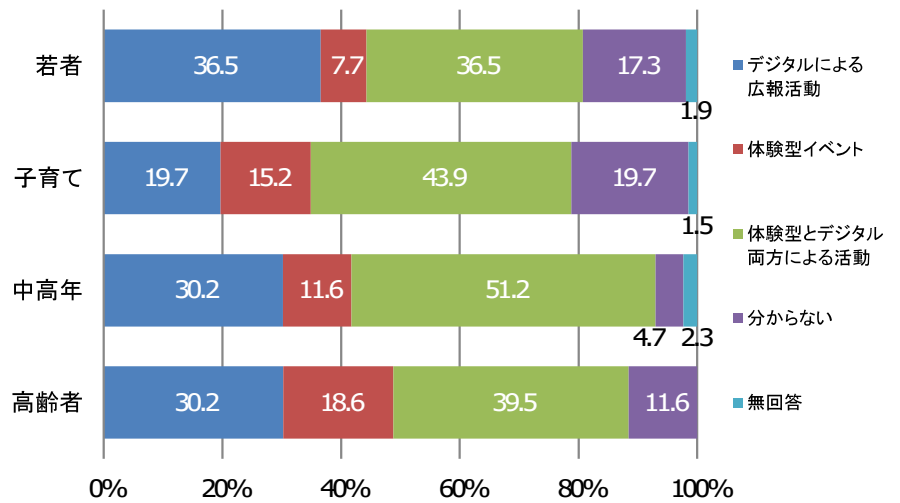
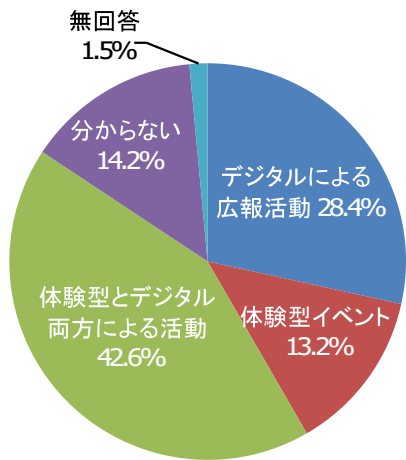
問8 下水道について、興味があることや知りたい情報

(N=204 複数回答)



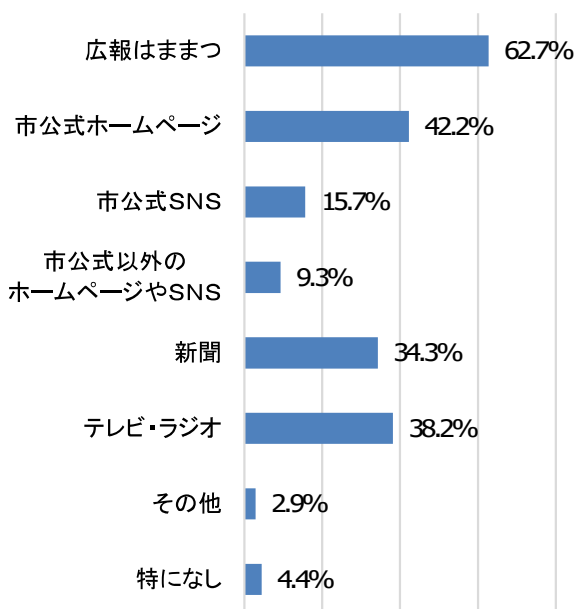
- 下水道について、興味があることや知りたい情報については、「災害時の下水道の使用について」が最も多い回答となっており、次いで「下水道使用料の設定のあり方」も約4割となっています。
- 世代別にみると、若者では「下水道の仕組み」が、子育てでは「下水道の自然災害に対する取り組み」が、中高年では「下水道使用料の設定のあり方」が、高齢者では「災害時の下水道の使用について」が最も多い回答となっています。

■問9 今後の上下水道の広報活動はどのような形態がよいか (N=204)



- 今後の上下水道の広報活動はどのような形態がよいかについては、「体験型とデジタル両方による活動」が約4割と最も多い回答となっています。
- 世代別にも見て、全ての世代で「体験型とデジタル両方による活動」が最も多い回答となっています(若者では「デジタルによる広報活動」も同率)。

■問10 上下水道に関する情報の入手手段として利用したい媒体 (N=204 複数回答)



(%)	若者	子育て	中高年	高齢者
広報はままつ	36.5	63.6	69.8	86.0
市公式ホームページ	44.2	33.3	62.8	32.6
市公式SNS	26.9	25.8	2.3	-
市公式以外のホームページやSNS	13.5	7.6	11.6	4.7
新聞	17.3	27.3	39.5	60.5
テレビ・ラジオ	40.4	30.3	44.2	41.9
その他	1.9	3.0	-	7.0
特になし	7.7	7.6	-	-

■その他意見

- ・回覧板
- ・YouTubeなどの動画サイト
- ・LINE
- ・災害時のエリアメール

- 上下水道に関する情報の入手手段として利用したい媒体については、「広報はままつ」が約6割と最も多い回答となっています。
- 世代別にもみると、若者では「市公式ホームページ」が、子育て・中高年・高齢者では「広報はままつ」が最も多い回答となっています。